令和４年度　第３回学校運営協議会　グループワーク　記録

テーマ「地域にかがやき発信（貢献）する清水特別支援学校を創ろう」

１班

① 学校からのスライド発表を受けて

・作品展示→目的が「知ってもらう」であれば、作品をカレンダーにして販売する

・ 買うのは、こちらに近い人…でも店先などに掲示してもらえれば、見る人は不特定多数。企業等は、社会貢献していることをアピールしたいので、目につくところに飾る。企業側も、どのように支援学校とつながろうかと悩んでいる部分もある。

・ カレンダーに載せる作品の写真はこだわる、制作活動での苦労話やアピールなども共に載せる、支援のワンポイントアドバイス等、特別支援学校がどのようなことをやっているのかが分かるものになっていると良い。

→作品だけの展示では、見るだけにとどまってしまい、「知ってもらう」の目的が達成できない。できれば動画、難しければたくさんの写真を使って、子どもたちを知ってもらうことが大事。

→展示場所は、色々な人に見てもらえる場所が良い。銀行、信用金庫等。一年をかけて巡回していく形、子どもたちが作品を持って行き、地域の方々や行員と交流する。

・ごみハンター→分別のサンプル（現物）を作成し、家庭で使ったり、地域に知らせたりする。サンプルは定期的に交換しに行くと交流もできる。サンプルは、子どもたちのアイデアも入れながら作ると良い。

② 委員の皆さんができること

Ａ委員

・旧清水工業高校の跡地に特別支援学校の新設を切望し、署名集めや地域住民への理解啓発、県への要望活動を清水手をつなぐ育成会が行ってきたという開校時からのつながりで、学校とはとても良い連携が取れていると思う。

例えば、＊福祉関係の事業所合同説明会（学校施設で行われているのは清水だけ）

＊移行支援会議・個別の支援会議への協力

＊保護者への支援（情報提供、相談）

＊課題を抱えた子への支援（複雑多様化している課題に関係機関と対応）

＊在学中だけでなく、卒業後の生活を見据えた関係機関への橋渡し　等

これまでのかかわりを今後も継続して行っていければと思う。

・福祉サービスのしくみ、種類、内容、利用の仕方などについて知らないとか情報が届いていない保護者が増えている。地域の福祉サービスや活用できる福祉資源などの必要な情報を気軽に得られる育成会が身近にあるので、保護者の方々はもっと繋がってほしい。

→※福祉サービスについて学校からの発信で情報を得る場所を設定できないか。そこに、育成会が情報提供として協力はできる。

※（Ｂ委員）就労後は、福祉につながっていてほしい。就労する段階で、会社側は福祉とつながっていると思っているので、連携が不十分な場合は困ることもある。現在は就労とともに福祉サービスについても教えているが、会社はそれをする場ではないため、どこかのタイミングで知っていてほしい。安心して地域で暮らし、働くためには福祉のことを知っておく必要がある。

※学校で、「企業―福祉―保護者」の交流の場が持てないか。
可能であれば、支援級の保護者や支援級の教師も聞いてほしい。

Ｂ委員

・清掃指導のゲストティーチャー（先輩＝プロとして）…Ａ小、Ｂ中で始める予定の活動を本校にも。

・（前述）アピールの場（銀行や信用金庫）への顔つなぎ
企業同士のノウハウや人の交流を行っていて、さらに様々な企業と行うことを計画している。障害のある人が、力があることを見せたい＝仕事に取り組んでいるところを見てほしい

・災害時に会社が避難所になることもある。災害時の様々な班に健常者も障害者も配置されており、避難訓練も頻繁に行っている。障害のある方も災害時に係の一員として動くことができる。

→災害時に人を思いやる気持ち（助ける気持ち）を育てておきたい。高等部が小学部と関わる活動は、思いやる気持ちを育んでいるよい取り組みであり、職場で生きる力。（思いやりが育っていないと、自分より能力が下の者や弱者をバカにしたり、うまく助けられなかったりする。清水特支の卒業生は思いやる気持ちが育っているので、日々のかかわりの成果だと思う。）

Ａ委員

・ 高等部の生徒が小学部の児童と関わる活動は、思いやる気持ちを育てる良い取組だと思う。弱い立場にある人、手助けを必要としている人、困っている人などへ手を貸すことや気持ちにより添える若者がいることは、万一の災害にも心強い。

・ ９月の台風 15 号豪雨による災害では、災害時要援護者への安否確認や支援については、「要援護者名簿」の活用も声掛けもされなかったことを重く考え、災害時の要援護者に関する支援体制の確認・見直しを行政、関係機関に働きかけたい。

２班

今後、地域と共にできることについて

Ｃ委員：・お茶プロジェクトのお茶のティパックやしみずのじまん弁当地域の方、学校も含め、１つの製品を作っていけると良い。

・市内にカフェを開いた。生徒の体験に使ってもらって良い。知らない人に接客や販売は、力がいる。

・カフェには、ヤギもいる。店の目玉にしているが、ＳＤＧｓにあっていると思う。雑草を食べてくれる。人間には、癒しを与えてくれる。児童生徒に餌を与えてもらって育ててもらうのも良い。食べる雑草、食べない雑草を調べてもらうのも良い。ヤギがいると人が寄ってくる。支援学校の児童生徒と地域の方との交流の場になると良い。

・ペーパークラフト班のポチ袋を見て、このような製品を生徒たちが作れることを、みんな知らない。製品展示をして知ってもらうと良い。

Ｄ委員：・中学部３年生の自治会館の清掃活動がありがたかった。自治会では、年末など数回しか自治会館の掃除をしない。掃除をしてもらい、みんな喜んでいる。製品展示をしてもらっても良い。あの学校の生徒がこんな素敵な製品を作っていると知ると思う。

Ａ職員：・お茶プロについて、来年度はもう少し、生徒も関わりたい。お茶の木を校内に植えたり、できあがったお茶を袋詰めしたり、シール貼りをしたり、お茶の木の葉から茶葉になり、家庭に来るまでを確認できると良い。授業の中に入れたい。

Ｄ委員：・自治会の行事は休日が多い。11/３．４の文化展への作品展示がありがたかった。

・地区のテーラーが閉鎖した。店の１階から３階まで生地が残っている。使える物も多いため中学部や高等部で使用してもらいたい。

・９月の大雨災害での断水では八坂町は、大きな被害はなかったが、秋葉山公園の生活用水用タンクは使用しなかった。使用する地区が決まっていたためだが、本来は、防災時に機能する公園のため今後、活用について考えていきたい。

Ｂ職員：今回のように中学部が自治会館の掃除をやって「ありがとう」と言われる体験をした。顔の知らない人から「ありがとう」を言われることは少ない。貴重な体験をさせてもらった。お願いされるのがうれしく感じる。作業等で制作したコースターなど、カフェで使っていただけたら…。

Ａ職員：しみずの自慢の授業で、「お茶」を使った飲料の開発などもやらしていただくと楽しい。

Ｃ委員：協力できることがあればやらせていただく。

３班

〇現在の状況について

【９月 26.27 日の断水について】

Ｅ委員：休校２日間でいち早く再開できたのは素晴らしい。あと一日遅かったら連絡していた。ちなみに本施設は休まなかった。
災害に対して大事なことは　一日も早い安否確認と学校再開だと思う。
保護者の信頼を勝ち得るためにはそれが大事。
Ａ校は以前、ハザードマップに児生と教師の居住地を記し、実際に集まって情報交換を行ったことがある。
地域の人達に水を配ること等、もう一歩踏み込めたと思う。

Ｆ委員：水の確保に大変だったので、学校再開はありがたかった。
安否確認の体制は整っているのか心配。現に、浸水した家庭をすべて把握できていないと思う。情報を収集できるようにシステム化してほしい。

Ｇ委員：飯田地区は３つに分かれていて連携がとれている。毎月３名がボラに参加している。最初は抵抗があるか心配だったが、気持ちよく参加をしてくれている。
これからは防災についての意識を伝えることを目的に動いていく。

Ｃ職員：交流関係でも、学校がパワーをもらっている。

☞有事の際は、避難所として開放される。高等部棟(福祉施設)体育館(一般施設)運営は八坂自治会が行う。学校として、様々な地域の集まりに誰がどのように参加するのか考えていきたい。

〇今後について

Ｆ委員：私は NPO 中間支援員としても働いている。地域の NPO と連携していくことも大切だと思うので今後は運営委員の人選についても考え、清水市民活動センターの方を選出するなどできたらよいと思う。清水の NPO の方に参加をしてもらえば、市民活動センターでの作品出店や発表等色々活動を広げられると思う。また授業にタブレットの導入が進んでいるのでＩＴ関連の方の支援も必要。
今年度もコロナによってＰＴＡでの集まりもなく、情報が行き届かなくてトラブルもあった。なかなかできないままではあるが、外国籍の家族や困っている子について等日頃の思いについての話し合いの場を設けたい。

Ｅ委員：学校として運営協議会をどのように位置付けていくのか？どのポジションに置いていくのか？１年間の学校運営の PDCA サイクルの中で意見をどう吸い上げてどのように下ろしていくか？校長は３年間くらいで代わる。外交的な方もいれば、土壌を固める内向的な方もいる。委員会のメンバーをより機能的にしていくのであれば、ブレずに継続していく必要性がある。

学校としてのエリア(スクールエリア)は良くなっても、子ども達のエリア(ホームエリア)はまだまだ改善の余地がある。就労、医療、福祉と学校としてこのレイヤーをどう重ねていくかが大事。
学校訪問の取組は素晴らしい。今後は就労した方にも取り組んでもらい、継続していくことでつながりを深くしてほしい。

Ｃ職員：訪問はお互いの利益が多いので継続していきたい。

Ｅ委員：本施設でも、Ａ中出身の方(46 歳？)が母校でバリスタを実演した。本人にとっても生徒にとっても自信につながった。

Ｅ委員：今後は防災、卒業後の就学もそうだが、就労までにはいかない子ども達への学びの機会の保障も市民活動センターに協力をしてもらってできると良い。文部科学省が障害のある人の生涯学習の必要性を発信している。卒業後の学びの機会の保障は大切な課題。市民活動センター等に協力してもらえると良い。

Ｃ職員：現在は、問題があったときばかり相談が多い。そのような相談があるようにしていきたい。

Ｅ委員：最終的なセーフティーネットが福祉(放デイ)となっているのが現状。
それで良いの？そのような時に学校はどうしているの？ 学校として何ができるのかを考えてほしい。

〇その他(困っていること)

Ｄ職員：教務のスクールバス関連問題として、年々乗車率も上がり、安心安全のためには降りてもらう子どももいる。送迎にしても、車がなくてできない。また、バス停の駐車場の確保ができない。

Ｅ委員：すでに実施されたが、ピオンギャラリーでの児童生徒の作品展示は、清水特単独だけでなく、地域の支援学級や、区内の高校とのコラボも良いのでは。
高等部の生徒や職員の皆様向けのコーヒー講座として、コーヒーについての情報の紹介や、コーヒーのおいしい淹れ方講座等の実技も可能。

Ｆ委員：清水特別支援学校は体育館が一般避難所、高等部棟が福祉避難所に指定されている。避難所の運営は基本的には地域の自治会がおこなうことになっているが、学校の協力はかかせないと思う、学校、自治会、行政で避難所運営について検討していく必要があるのではないか。

Ｇ委員：清水特支に通学している子をみると、95%が旧清水市のお子さんなので、社会福祉協議会の企画延長会議というものがあるのでそこに議題として挙げてみたいと思う。